

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地													
麻生外語観光&製菓専門 門学校		平成3年1月8日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 092-415-2293													
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地													
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士													
文化・教養	文化教養専門課程	海外ビジネス科		平成22年文部科学省 告示第31号	—													
学科の目的	英語、第2外国語、高度なITスキルを習得し、国内外を問わずグローバルなフィールドで活躍するビジネスパーソンを育成する																	
認定年月日	平成27年2月17日																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技											
	2年 昼間	1725時間	185時間	1845時間	40時間	0時間	0時間											
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数												
80人		122人	11人	4人	21人	25人												
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テスト等の総合評価													
長期休み	■夏季:8月11日～9月8日 ■冬季:12月21日～1月8日 ■春季:3月10日～4月5日			卒業・進級 条件	ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に係る令和1年5月1日時点の情報)													
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 航空、旅行、ホテル、一般企業 等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実用英語技能 検定試験2級</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>TOEIC L&R(IP) 500点以上</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	実用英語技能 検定試験2級	③	43人	32人	TOEIC L&R(IP) 500点以上	③	43人	27人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数													
	実用英語技能 検定試験2級	③	43人		32人													
	TOEIC L&R(IP) 500点以上	③	43人		27人													
	■就職指導内容 希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言 を与える。																	
■卒業生数 43 人 ■就職希望者数 36 人 ■就職者数 35 人 ■就職率 : 97.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 81.4 %																		
■その他 ・進学: 1人 ・留学: 2人 ・家事手伝い: 4人																		
(平成 30 年度卒業者に係る 令和元年5月1日 時点の情報)																		
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 2.8 % 平成30年5月1日時点において、在学者108名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者105名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 進路変更による退学、経済的理由による学業継続困難等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての 面談。 ガイダンス記録による報告。																	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災して進学が困難になった者を対象に、入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																	
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																	
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/aftc/subject/business/																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携により実践的かつ専門的な職業教育を実施することで人材養成課程の質の保証・向上を基本方針とする。
授業科目開設においては、卒業生を対象とする「お客様アンケート」結果と教育課程編成委員との意見交換により、企業視点を軸としてグローバルなビジネスシーンにおいて必要とされる知識・技能の修得を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
長 加奈子	福岡大学 准教授	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	②
小林 俊裕	日本通運株式会社 福岡支店 九州グローバルロジスティクス企画 次長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
金 大義	㈱韓進インターナショナルジャパン 福岡空港事業部 事業部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
和田 菜穂	麻生外語観光&製菓専門学校 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
石田 小雪	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
村上 正雄	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
稲岬 明子	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
岡本 彩	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

平成30年度 第1回 平成30年6月20日 17:00～18:00

平成30年度 第2回 平成30年10月17日 16:30～17:30

平成31年度 第1回 令和1年6月12日 17:00～18:00

(開催日時(予定))

平成31年度 第2回 令和1年10月16日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

グローバル社会におけるビジネス、サービス産業に携わる人材像に関して、英語によるコミュニケーション能力に限らず、業界専門知識やスキルの習得が必要とされている。そのためにも、グローバル人材育成のためのカリキュラム構成や、インターンシップなどによる就業体験の必要性に関する意見を頂いた。そのため、観光業界での「企業インターンシップ」を導入し、企業連携科目で得た知識の実践の機会と位置づけ、受入れ先企業様からの指導・評価を受けることで学内での学習との相乗効果を図ることとした今後社会が求める実践的なカリキュラムとなるよう適宜見直しを行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業と学校による教育委託契約書により、企業が選任した講師による演習を実施する。教育カリキュラムの設定並びに変更にあたっては企業と学校とで事前に協議を行い決定する。評価は筆記試験、レポート課題提出状況や内容を踏まえた総合評価とするが、評価基準については事前協議の上で設定する。
【 授 業 科 目 】 マーケティング
【授業開設の目的】 グローバル社会におけるビジネスを理解し、トレンドの把握、顧客ニーズの解明、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶことで、国際社会に対応する人材の育成を目指す
【 授 業 科 目 】 プロジェクトベースドラーニング
【授業開設の目的】 学習を能動的なものとして規定し知識の暗記にみられる受動的なものを脱却するために、自ら課題を発見し解決していく能力を醸成
【 授 業 科 目 】 Intensive English Learning Program
【授業開設の目的】 語学力向上と共に海外での生活、文化を経験することで、広い視野と複眼的な価値観を醸成

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く。	株式会社ブライトウェイ
プロジェクトベースドラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う。	株式会社ブライトウェイ
Intensive English Learning Program	セブ島QQ Englishにおいて、マンツーマン授業など集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させると共に、異文化理解を深め多様性を受け入れることができるようになる。	株式会社QQEnglish

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・研修名「使える英語の効果的習得法」(連携企業等：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)
 期間：平成30年6月5日(火) 対象(石田 小雪、村上 正雄)
 内容：TOEICの効果的学習方法の紹介、スコア別英語トレーニングの実践
 ・研修名「企業が求めるグローバル人材像と社会を見据えた大学英語教育～TOEIC Programの様々な活用方法～」
 (連携企業等：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)
 期間：平成30年9月15日(土) 対象(村上 正雄)
 内容：特色あるグローバル人材育成の取り組みとTOEIC Programの効果的活用と活用事例の共有

② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・研修名「教える技術」(連携企業等：公益法人日本生産性本部)
 期間：平成30年8月21～22日 対象(村上 正雄)
 内容：ライブメソッドの紹介・気づきの実習体験・ファンリテーション実習など
 ・研修名「初年次教育セミナー」(連携企業等：株式会社進研アド)
 期間：平成30年7月25日(水) 対象(和田 菜穂、村上 正雄)
 内容：専門学校入学生の特徴並びに分析報告・教材開発のプロによる指導法講座・課題解決のポイント整理

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・研修名「学生の将来を後押しする大学の取り組み～社会のニーズから考えるTOEIC Programの活用～」
 (連携企業等：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)
 期間：令和1年8月23日(金) 対象(石田 小雪、村上 正雄)
 内容：TOEICを活用する大学による活用事例の発表とグローバル人材育成の取り組みについての共有

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名「カウンセリング I 研修」(連携企業等:日本交流分析協会)
 期間:平成31年4月24日(水) 対象(岡本 彩)
 内容:カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得
- ・研修名「3つのポリシーの策定・運用実践」(連携企業等:先端教育機構)
 期間:令和1年9月9日11日(水)、25日(金) 対象(石田 小雪)
 内容:3つのポリシーの策定・運用実践

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今日のグローバルな課題を解決し学生自身の持続的な成長を実現するために、あらゆる分野に通用する世界で活躍できる人材を育成することが不可欠であるとの意見を踏まえ、語学学習環境の拡充(英語+第二外国語)、また課題解決を導き出す力を育むプロジェクトベースラーニングのシラバス改訂を行った。更には、学習成果を測る位置付けとしている観光業界での「企業インターンシップ」においては、幅広い業界における語学の必要性を企業様へ直接ヒアリングを行うことで受け入れ先企業数の拡大を目指している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
溝口 敦子	保護者	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	PTA
堀部 豊和	卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域住民
甲斐 直樹	福岡県立嘉穂東高等学校 校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	高校関係者
野中 昌	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
増田 義孝	航空貨物研修センター 代表	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
長 加奈子	福岡大学 准教授	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
小野 聡之	九州B.M.C. 常任相談役兼副会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
鶴田 武彦	福岡県洋菓子協会 専務理事、事務局長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	その他
翁林 友子	ANA福岡空港株式会社 旅客サービス部 旅客サービス課 マネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岸上 昌仁	ANA福岡空港株式会社 貨物・グランドサービス部 ライトハンドリング課 マネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
小林 俊裕	日本通運株式会社 福岡支店 九州グローバルロジスティクス企画 次長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
木村 弘	トップスタッフ株式会社 九州支店 主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
金 大義	㈱韓進インターナショナルジャパン 福岡空港事業部 事業部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
千々岩 朋子	ヒルトン福岡シーホーク 副総支配人-人事業務担当	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
大屋 寿	株式会社 ニューオータニ九州 執行役員人事総務部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
細溝 亮太	株式会社 JTB九州 福岡在中 人事チーム グループリーダー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
安藤 大介	高見株式会社 コスチュームDiv.九州 営業部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
山下 輝美朗	株式会社 石村萬盛堂 製造本部新宮工場 工場長洋菓子部次長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
廣瀬 義幸	ベイ・バスク オーナーシェフ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
西藤 未来	株式会社 ディアーズ・ブレイン 人材開発部	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
工藤 由美子	株式会社QQEnglish 営業第3グループ エキスパートマネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法: ホームページ

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aftc/2019/hyoka.pdf/>

公表時期: 令和元年7月22日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、6つの特徴
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

<http://www.asoiuku.ac.jp/aftc/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 平成31年度															
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Speaking Skills I A	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する	1前	60	4	△	○		○		○	○	
○			Speaking Skills I B	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する。前期の学習を踏まえ、英会話力の向上を目指す	1後	45	3	△	○		○		○	○	
○			English Recitation	レベル別に英語の課題文を暗記し、人前で発表するプロセスの中で、語彙、フレーズの習得、表現力の向上を目指す	1後	20	1	△	○		○		○	○	
○			MOS演習 I A	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1前	60	4	△	○		○			○	
○			MOS演習 I B	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1後	45	3	△	○		○			○	
○			英語検定対策 I A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1前	90	6	△	○		○		○		
○			英語検定対策 I B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1後	60	4	△	○		○		○		
○			総合英語 I A	レベルごとに基礎英文法の習得、英語で「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の基礎力を養成する	1前	60	4	△	○		○		○	○	
○			総合英語 I B	前期の学習内容をもとに、さらに高等な英文法の習得、読解、聴解、英会話の実践練習を行い、総合的な英語力を養成する	1後	45	3	△	○		○		○	○	
	○	A	韓国語 I A	ハングル文字を学ぶことから始め、韓国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの韓国語習得を目指す ※韓国語 I A、中国語 I Aのいずれか1科目を選択。	1前	30	2	△	○		○			○	
	○	B	中国語 I A	音調の学習から始め、中国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの中国語習得を目指す ※韓国語 I A、中国語 I Aのいずれか1科目を選択。	1前	30	2	△	○		○			○	

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○	A	韓国語 I B	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な韓国語会話の習得を目指す ※韓国語 I B、中国語 I Bのいずれか1科目を選択。	1後	45	3	△	○		○			○	
	○	B	中国語 I B	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な中国語会話の習得を目指す ※韓国語 I B、中国語 I Bのいずれか1科目を選択。	1後	45	3	△	○		○				○
	○	A	インバウンド概論	21世紀の国際観光産業について、訪日外国人観光客をめぐる最近の動きや外国人から見た日本の観光資源についての概要を掴み、アメリカ系ホテルビジネスや外資系航空会社の日本戦略についても学ぶ。また、外国人から見た九州観光の魅力について調査し、プレゼンテーションを行う。	1前	30	2	△	○		○				○
	○	A	観光業界概論	ホテル、トラベル、航空の各業界の現状ならびに各業界にどのような業務があるのかについて学ぶ	1後	20	1	△	○		○				○
	○	A	サービス接遇	「サービス接遇検定2級」の合格を目指すとともに、接客マナーについての知識を修得する	1前	60	4	○			○			○	
	○	B	商業簿記 I A	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ	1前	30	2	△	○		○				○
	○	B	商業簿記 I B	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ	1後	20	1	△	○		○				○
	○	B	貿易英語 A	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使用される語彙、フレーズを習得する	1前	30	2	△	○		○				○
	○	B	貿易英語 B	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使用される語彙、フレーズを習得する	1後	30	2	△	○		○				○
○			一般教養 I A	就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○			一般教養 I B	一般教養 I Aに続き、就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1後	20	1	○			○				○

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			GCB I	様々な事例について話し合うことにより、「感謝と思いやり」を学ぶ	1前	15	1	○	△		○		○		
○			社会教養 I A	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1前	15	1	△	○		○		○		
○			社会教養 I B	社会教養 I Aに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1後	15	1	△	○		○		○		
○			Intensive English Learning Program	セブ島QQ Englishにおいて、マンツーマン授業など集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させる	1後	150	10	△	○			○	○	○	○
		○	企業インターンシップ	旅行会社、ホテル、ブライダルなど、各業界にてインターンシップを体験することで、職種を理解し、自分に足りないものに気づく	1後	40	1			○		○	○	○	
○			Speaking Skills II A	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2前	60	4	△	○		○		○	○	
○			Speaking Skills II B	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2後	60	4	△	○		○		○	○	
○			Speech	2年間の英語学習の集大成として、各自の問題意識、関心のあるテーマについてリサーチを行った内容を英語でスピーチとして発表する	2前	60	4	△	○		○		○		
○			Graduation Report	スピーチに関連したテーマについて、英語での論文作成を行い、まとめた内容について英語でプレゼンテーションをする。	2後	60	4	△	○		○		○		
○			MOS演習 II	1年次の学びを基に実践的、実地的な応用演習を総合的に行うとともに、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す	2前	60	4	△	○		○			○	
○			英語検定対策 II A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2前	60	4	△	○		○		○		
○			英語検定対策 II B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2後	60	4	△	○		○		○		

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○	A	通訳入門	通訳の際必要となる高度な英語運用能力や日本語での説得力ある話法を身につける。また、話し手の要点と考えを正確かつ迅速に把握する能力を身につける。	2前	30	2	△	○		○	○			
	○	B	総合英語ⅡA	英語のビジネス文書やニュースの記事を題材として、様々なタスクを通して英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に身につける。	2前	30	2	△	○		○	○			
○			総合英語ⅡB	ニュースに使われる語彙やフレーズを学び、時事英語や日常会話よりも早い英語に慣れ、より広い範囲の英語への適応力の養成を目指す	2後	30	2	△	○		○	○			
○			Intensive Writing	企業で日常的に使用する英語のビジネス文書(計画書や企画書、報告書、履歴書、電子メールなど)の作成、および英語による海外取引全般に関する内容が理解できる	2後	30	2	△	○		○		○		
○			マーケティング	企業の「売る」ための仕組みや企業のさまざまなマーケティング戦略について学ぶ	2後	30	2	△	○		○		○	○	
○			プロジェクトベースドラニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う	2後	15	1	△	○		○		○	○	
	○	A	韓国語ⅡA	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める ※韓国語ⅡA、中国語ⅡAのいずれか1科目を選択。	2前	30	2	△	○		○		○		
	○	B	中国語ⅡA	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める ※韓国語ⅡA、中国語ⅡAのいずれか1科目を選択。	2前	30	2	△	○		○		○		
	○	A	韓国語ⅡB	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める ※韓国語ⅡB、中国語ⅡBのいずれか1科目を選択。	2後	30	2	△	○		○		○		
	○	B	中国語ⅡB	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める ※韓国語ⅡB、中国語ⅡBのいずれか1科目を選択。	2後	30	2	△	○		○		○		
	○	A	観光業界実務	ホテル、トラベル、航空の各業界の業務について実践を交え、より具体的に学ぶ	2前	30	2	△	○		○		○		
	○	B	商業簿記Ⅱ	商業簿記Ⅰで学習したことを元に、「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格を目指す	2前	30	2	△	○		○		○		

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			一般教養ⅡA	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2前	30	2	○			○			○		
○			一般教養ⅡB	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題に対応できるようになる	2後	15	1	○			○				○	
○			ビジネス実務	名刺の渡し方やお茶出しなどの、社会人として求められるマナーを実践的に身に付ける	2後	30	2	△	○		○			○		
○			GCBⅡ	著名人や偉人の人生や教訓を通して、「志」を学ぶ	2前	15	1	○	△		○			○		
○			社会教養ⅡA	会社訪問や面接試験を受ける際の事前準備、訪問・面接試験後の振り返りと反省をし、就職試験に向けての準備を行う	2前	45	3	△	○		○			○		
○			社会教養ⅡB	比較的身近な話題に関するインタラクティブディベートの活動を通して、批判的思考を身につけ、発信力や傾聴の姿勢を育てる。裁判所見学、博物館見学などのアクティブラーニングを通して、社会文化的な教養を身につける	2後	30	2	△	○		○			○		
合計					52科目		1725単位時間 (114 単位)									

*Aか*Bのどちらかを選択する

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。